

株主の皆様へ
2011年3月期 第2四半期決算号
2010年4月1日～2010年9月30日



Daiichi-Sankyo

株主通信 Vol.8



つくっているのは、希望です。



第一三共株式会社

第一三共株式会社

〒103-8426 東京都中央区日本橋本町三丁目5番1号
<http://www.daiichisankyo.co.jp/>

〈お問い合わせ先〉コーポレートコミュニケーション部 TEL.03-6225-1125 / FAX.03-6225-1132



証券コード：4568

第一三共株式会社



ハイブリッドビジネスを着実に推進し、
Global Pharma Innovatorの実現を
追求してまいります。

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

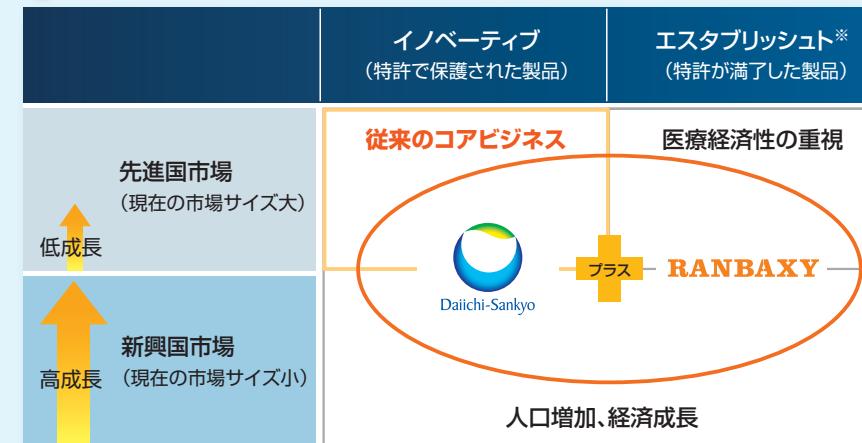
第一三共グループの企業理念は「革新的医薬品を継続的に創出し、多様な医療ニーズに応える医薬品を提供することで、世界中の人々の健康で豊かな生活に貢献する」ことです。

この企業理念に基づき、2015年ビジョン「Global Pharma Innovatorの実現」を目指しております。

2010年度からの第2期中期経営計画期間においては、イノベティブ医薬品事業の強化充実を図っていくとともに、多様化する医療ニーズに対応すること、さらに子会社のランバクシー社とのバリューチェーン全般におけるシナジー創出を主たる目標に掲げ、計数目標を必達したいと考えております。

とくに、日本では、複数の有望な新製品の上市が見込まれますので、目標を超える実績を残して、国内No. 1カンパニーを目指したいと考えております。

● ハイブリッドビジネスモデル



※有効性、安全性、使用法が確立され、長きにわたり医療に貢献している医薬品の総称。

また、さまざまな患者さんのニーズに応じていく具体的な取り組みとして、この10月に第一三共エスファ株式会社の営業を開始しました。

そして、ランバクシー社との一層の協業により、新興国市場を含めた強力なグローバルリーチによる収益拡大およびサプライチェーンを中心としたコストシナジーを実現し、ビジネスを一層伸長させてまいります。なお現在、米国向け製品に関わる諸問題の解決に向け、グループ全体として真摯に対応しております。

先進国と新興国、イノベティブ医薬品とエスタブリッシュト医薬品、あらゆるニーズに対応し、永続的な成長をより確かなものにしていくため、ハイブリッドビジネスを推進し、継続的な企業成長を実現させていく所存です。

今後とも株主の皆様のご支援をお願い申し上げます。

代表取締役社長兼CEO 中山 讓治

CONTENTS

目次

- P01～02 株主の皆様へ
▶株主の皆様へのご挨拶はこちらをご覧ください。
- P03～06 特集・ランバクシーレポート
▶ランバクシー社についてはこちらをご覧ください。
- P07～08 研究開発の状況
▶新薬開発状況についてはこちらをご覧ください。
- P09～12 新着トピックス
▶抗インフルエンザウイルス薬「イナビル」、第一三共エスファについてはこちらをご覧ください。
- P13～16 決算のご報告
▶業績のポイントについてはこちらをご覧ください。
- P17～18 企業インフォメーション
▶会社の基本情報についてはこちらをご覧ください。

RANBAXY ハイブリッドビジネスの一翼を担うランバクシー社

インド最大規模の製薬会社 ランバクシー社のプロフィール

ハイブリッドビジネスの一翼を担うランバクシー社は、2008年11月より、第一三共グループの一員となりました。ランバクシー社は1961年に設立、インドの証券取引所に上場するインドにおける最大規模の製薬会社であります。

ジェネリック医薬品企業としては世界トップ10にランクされており、先進国のみならず新興国市場において高い成長を続けるインドや東欧諸国をはじめ、アジア、アフリカ諸国に至る46か国に販売拠点を置く、幅広いグローバルリーチを有しております。

なお、同社の米国向け製品に関わるGMP違反等については、問題の早期解決に向けて、FDA(米国食品医薬品庁)などと協力し対応を続けております。

会社概要

商号	Ranbaxy Laboratories Limited (URL: http://www.ranbaxy.com/)	決算期	12月末
本社	インド共和国ハリアナ州、グルガオン	従業員数	約14,000名(うち研究開発約1,200名)
設立	1961年	主要製品	高コレステロール血症、感染症などの領域におけるジェネリック医薬品

シナジー創出を着実に推進中

先進国市場と新興国市場の双方をカバーし、あらゆる市場の変化やニーズに対応しうる「ハイブリッドビジネス」を実現するために、第一三共とランバクシー社の協業を着実に推進しております。



ランバクシー社 本社

● アルン・サウニーの紹介

2010年8月よりランバクシー社の新社長にアルン・サウニーが就任しました。

サウニーは同社のグローバル医薬ビジネスのプレジデントを務めるなど、医薬品業界における豊富な経験、見識、手腕を備えています。彼のリーダーシップのもと、第一三共グループの一員として、意思決定および業務執行を一層迅速化し、第一三共とランバクシー社が持つそれぞれの強みを活かしたシナジーを創出していきます。



取締役社長
アルン・サウニー



ランバクシー社の業績概況

米国における抗ウイルス剤の売上好調による大幅な売上拡大

2010年第2四半期(2010年4月~6月)における売上高は、458百万ドル(前年同期比22%増)となりました。また2010年第2四半期累計期間(2010年1月~6月)における売上高は、999百万ドル(前年同期比42%増)となりました。

2009年11月より米国で180日間の独占販売権をもって発売した抗ウイルス剤「バラシクロビル(Valacyclovir)」の売上寄与により大幅な売上拡大となりました。



グローバルな営業展開を着実に推進

ランバクシー社は、先進国のみならず新興国市場において高い成長を続けるインドや東欧諸国をはじめ、アジア、中南米、アフリカ諸国に至るまで、幅広いグローバルリーチを有しております。

2010年第2四半期累計期間においては、米国における抗ウイルス剤の売上拡大による大幅な伸長もありましたが、その他主要各拠点においても着実に伸長しております。



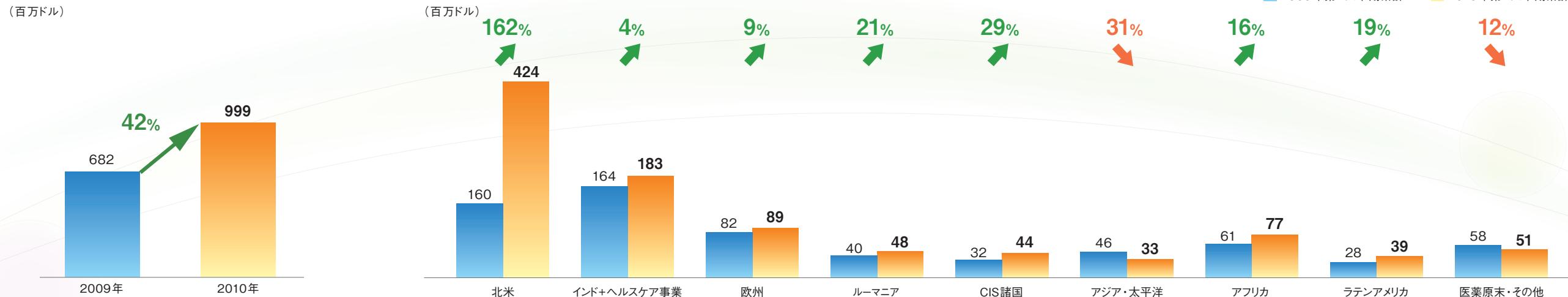
高血圧症治療剤「オルバンス」

第2四半期決算の概要

● 売上高の推移
(百万ドル)

● 地域/セグメント別売上高の推移
(百万ドル)

■ 2009年第2四半期累計 ■ 2010年第2四半期累計



※決算数値は、インド会計基準に基づき算出。
増減率は、現地通貨ベースにて算出。

開発パイプラインの状況および承認申請中の主要な品目についてご紹介いたします。

機能や地域の枠組みを超えた研究開発における最高意思決定機関GEMRAD (Global Executive Meeting of Research And Development)での意思決定を通じてグローバルな視点で研究・開発を進めています。

主な開発パイプラインの状況



承認申請中の主要な品目

エドキサバン

薬効	抗凝固剤
目標適応	術後静脈血栓塞栓症
開発地域	日本
申請	2010年3月

エドキサバンは第一三共が創製した経口の抗凝固剤であり、血管内で血液凝固に関与するXa因子を直接阻害する作用メカニズムを有します。

これまでのフェーズ3試験成績から、本剤の1日1回経口投与による膝関節全置換術施行患者、股関節全置換術施行患者等における術後静脈血栓塞栓症の予防効果および安全性を確認しています。

また、心房細動に伴う血栓塞栓症の予防、および深部静脈血栓症、肺塞栓症患者における静脈血栓塞栓症の二次予防についての国際共同試験も実施しています。

デノスマブ

薬効	抗RANKL抗体
目標適応	がん骨転移による骨病変
開発地域	日本
申請	2010年8月

デノスマブはRANKリガンド(破骨細胞の形成・活性化に必須の蛋白質)を標的とする世界初の完全ヒト型モノクローナル抗体です。第一三共は、2007年に本抗体を創製した米国アムジェン社から日本国内での開発・販売権を取得し、開発を進めてきました。

なお、骨粗鬆症の治療薬としても国内でフェーズ3試験を実施しております。

承認取得実績

2010年10月現在

製品名	適応症	承認	地域
ロキソニンゲル	鎮痛・抗炎症	2010年6月	日本
トライベンゾール (オルメサルタン3剤配合剤)	高血圧症	2010年7月	米国
イナビル	インフルエンザ(治療)	2010年9月	日本
クラビット点滴静注	呼吸器感染症等	2010年10月	日本

抗インフルエンザウイルス薬「イナビル」を 2010年10月に発売

イナビルは、第一三共が創製した純国産の長時間作用型ノイラミニダーゼ阻害剤で、本剤による治療は1回で完結します。当社は、本剤が今後のインフルエンザ治療における新たな選択肢となり、患者さん、さらには社会に広く貢献できるものと確信しております。

製品概要

製品名	イナビル吸入粉末剤20mg
一般名	ラニナミビルオクタン酸エステル水和物
効能・効果	A型またはB型インフルエンザウイルス感染症の治療
発売日	2010年10月19日



製品特徴

1 回で治療が完結します。イナビルは、感染部位である呼吸器に到達した後、そこに長く貯留します。既存の経口治療薬が1日2回、5日間投与が必要であるのに対し、イナビルによる治療は1回で完結します。

小児 に対しても良好な治療効果が確認されました。吸入可能であれば、特に年齢制限はありません。

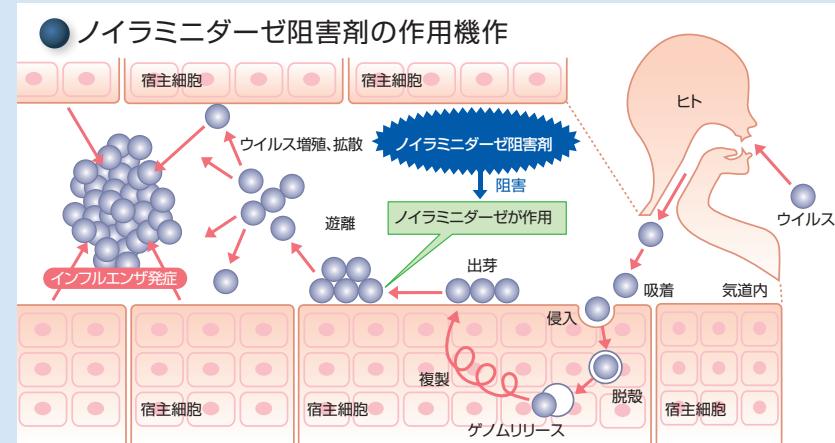
吸入剤 のメリットとして、感染部位である呼吸器に薬剤が直接的にかつ高濃度で到達し薬効が現われること、さらには薬剤の全身暴露による予期せぬ副作用を避けることが期待されます。

新型インフルエンザウイルスへの効果 非臨床試験で、新型インフルエンザウイルス、鳥インフルエンザウイルスおよびタミフル耐性インフルエンザウイルスに対する効果も確認されています。

MEMO

ノイラミニダーゼ阻害剤とは？

インフルエンザウイルスが生体の細胞から細胞へ感染・伝播していくために働くノイラミニダーゼを阻害することにより、増殖したインフルエンザウイルスが細胞外へ出て行くことを阻害します。ノイラミニダーゼはA型、B型に共通であることからA型、B型インフルエンザ両方に効果があります。



月刊「化学」2009年10月号より引用

インフルエンザに関する情報を掲載したWEBサイト「インフル・ニュース」

患者さんにイナビルを正しくお使いいただくための吸入方法の動画、お子様向けにインフルエンザ感染予防のための手洗い・うがいの動画など、多数コンテンツを掲載しています。

<http://www.influ-news.info/>



エスタブリッシュト医薬品を取り扱う第一三共 エスファが営業開始

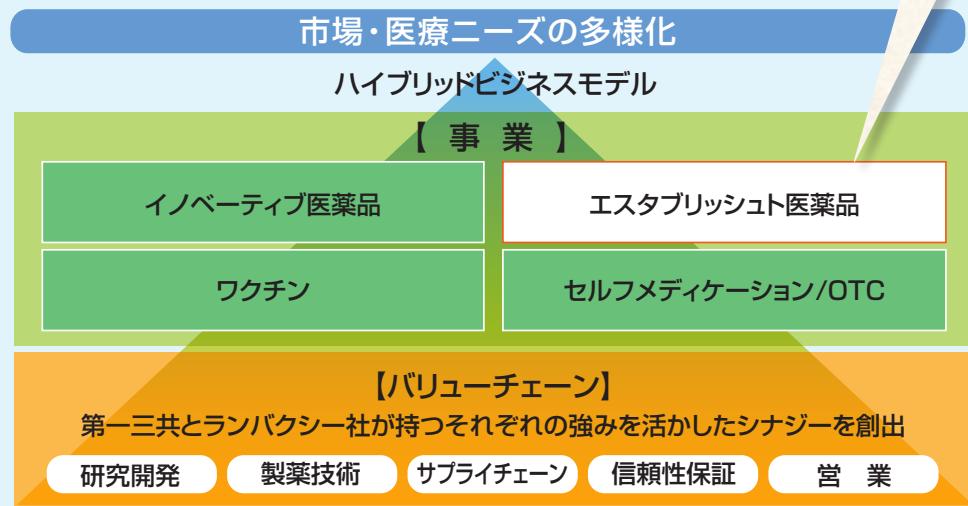
「多様な医療ニーズに応える医薬品を提供する」という第一三共グループの基本的な考え方のもと、日本における医薬品市場の変化をしっかりと捉え、今後、ますますニーズが高まっていくジェネリック医薬品市場に参入するため、2010年4月に、エスタブリッシュト医薬品を取り扱う第一三共エスファ株式会社を設立し、10月1日より営業を開始しました。

第一三共エスファは全国に12の営業拠点を置き、約70名の営業担当者が市場や医療のニーズの変化に柔軟に対応し、機動力のある事業展開を目指していきます。

会社概要

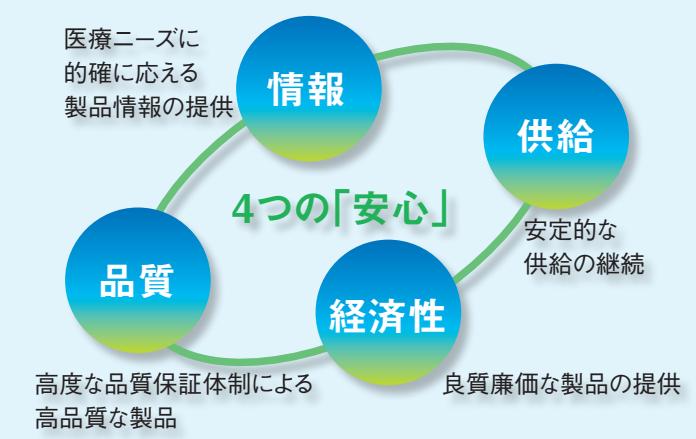
商号	第一三共エスファ株式会社
事業内容	医薬品の製造・販売
資本金	4億5千万円
本社	東京都江戸川区
役員	代表取締役会長 高田 龍三 代表取締役社長 玉井 伸正

 **第一三共エスファ株式会社**



第一三共エスファがお届けする4つの安心

第一三共との強固な連携体制を構築することで、医薬品にもっとも大切な「品質」「情報」「安定供給」、そしてジェネリック医薬品が持つ「経済性」の面からも、安心してご使用いただける製品の提供に努め、皆様の健康に貢献し、かつ信頼されるパートナーになることが第一三共エスファの企業理念です。



エスタブリッシュト医薬品とは

「エスタブリッシュト医薬品」とは、有効性、安全性、使用法が確立(エスタブリッシュト)され、長きにわたり医療に貢献している医薬品の総称であり、具体的には同社で取り扱う「ジェネリック医薬品」と「長期収載医薬品※」を指します。

2010年10月以降、ジェネリック医薬品24成分43品目と第一三共から承継された長期収載医薬品7成分19品目を取り扱ってまいります。

※長期収載医薬品
特許期間が満了し、他社からジェネリック医薬品が発売されている第一三共オリジナルの先発医薬品。

● 主な取り扱い製品

ジェネリック医薬品(24成分43品目)

製品名	薬効
アムロジピン	高血圧症・狭心症治療薬 持続性Ca拮抗薬
イミダプリル	アンジオテンシン変換選択性阻害剤

第一三共からの承継・販売元変更品(7成分19品目)

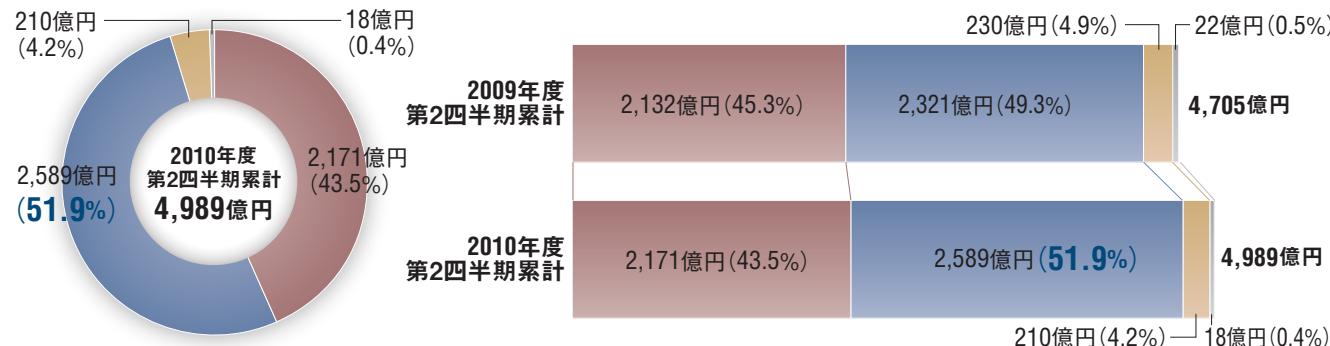
製品名	薬効
パントシン	パンテチン製剤
SM配合散	調剤用胃腸薬
ミルタックス	経皮鎮痛消炎剤

業績の概況

前年同期に比べ円高傾向で推移したものの、ランバクシー社の売上高985億円の寄与により**4,989億円(前年同期比 6.0%増)**となりました。

セグメント	主な増減要因	業績
国内医療用医薬品事業	<ul style="list-style-type: none"> ● 高血圧症治療剤オルメテック、消炎鎮痛剤ロキソニンブランドなどの売上寄与、2010年4月に新発売した高血圧症治療剤レザルタスの寄与により増収となりました。 	<p>売上高 2,171億円 (前年同期比 1.8%↑)</p>
海外医療用医薬品事業		<p>売上高 2,589億円 (前年同期比 11.6%↑)</p>
北米	<ul style="list-style-type: none"> ● 円高傾向に伴う為替の影響があったものの、エイゾール、ウェルコールなどが引き続き伸長していることに加え、ランバクシー社が米国で発売した抗ウイルス薬バラシクロピルの売上寄与により増収となりました。 	<p>売上高 1,351億円 (前年同期比 24.3%↑)</p>
欧州	<ul style="list-style-type: none"> ● セビカーの着実な伸長やランバクシー社の売上寄与があったものの、円高傾向に伴う為替の影響により減収となりました。 	<p>売上高 432億円 (前年同期比 8.0%↓)</p>
インド及びその他	<ul style="list-style-type: none"> ● ランバクシー社のインドなどにおける売上が寄与したことに加え、ASCA地域においてオルメサルタンなどが伸長したことにより増収となりました。 	<p>売上高 605億円 (前年同期比 18.6%↑)</p>
輸出及びロイヤリティ収入	<ul style="list-style-type: none"> ● 円高の影響や合成抗菌剤レボフロキサシンの輸出が減少しました。 	<p>売上高 202億円 (前年同期比 20.8%↓)</p>
ヘルスケア事業 (OTC)	<ul style="list-style-type: none"> ● 厳しい市場環境が続く中、総合感冒薬ルルシリーズなどの売上が減少しました。 	<p>売上高 210億円 (前年同期比 8.6%↓)</p>

事業別売上高構成比



主要会社の状況

第一三共

(単位: 億円)

	2010年度 第2四半期	2009年度 第2四半期	前年同期 増減
オルメテック 【高血圧症治療剤】	418	388	29
カルブロク 【高血圧症治療剤】	72	70	2
メパロチン 【高コレステロール血症治療剤】	203	249	△ 46
クラビット 【合成抗菌剤】	153	214	△ 61
ロキソニン 【消炎鎮痛解熱剤】	269	237	32
オムニパーク 【造影剤】	130	147	△ 17

第一三共INC. (米国)

(単位: 億円)

	2010年度 第2四半期	2009年度 第2四半期	前年同期 増減
ベニカー/ベニカーHCT 【高血圧症治療剤】	421	443	△ 22
エイゾール 【高血圧症治療剤】	72	62	10
ウェルコール 【高コレステロール血症治療剤/ 2型糖尿病治療剤】	144	134	10
エフィエント (共同販促収入) 【抗血小板剤】	11	10	—

第一三共ヘルスケア

(単位: 億円)

	2010年度 第2四半期	2009年度 第2四半期	前年同期 増減
ルル類	52	55	△ 4
ガスター10	10	10	0
第一三共胃腸薬類	16	18	△ 2
パテックス類	12	16	△ 3
トランシーノ	4	4	0

第一三共ヨーロッパ GmbH (欧州)

(単位: 億円)

	2010年度 第2四半期	2009年度 第2四半期	前年同期 増減
オルメテック/ オルメテックプラス 【高血圧症治療剤】	172	182	△ 10
セビカー 【高血圧症治療剤】	40	21	19
エビスタ 【骨粗鬆症治療剤】	33	50	△ 17

連結財務諸表

連結貸借対照表(要旨)

(単位: 億円)

科目/期別	当第2四半期末 (2010年9月30日現在)	前期末 (2010年3月31日現在)
資産の部		
流動資産	8,436	8,198
固定資産	6,214	6,698
資産合計	14,650	14,895
負債の部		
流動負債	2,980	2,688
固定負債	2,749	3,312
負債合計	5,729	6,000
純資産の部		
株主資本	9,181	8,870
資本金	500	500
資本剰余金	1,052	1,052
利益剰余金	7,774	7,464
自己株式	△ 146	△ 146
評価・換算差額等	△ 644	△ 313
新株予約権	36	33
少数株主持分	349	305
純資産合計	8,921	8,895
負債純資産合計	14,650	14,895

連結損益計算書(要旨)

(単位: 億円)

科目/期別	当第2四半期 自 2010年4月 1 日 至 2010年9月30日	前第2四半期 自 2009年4月 1 日 至 2009年9月30日
売上高	4,989	4,706
売上原価	1,385	1,372
売上総利益	3,604	3,333
販売費及び一般管理費	2,703	2,825
① 営業利益	901	509
営業外収益	101	148
営業外費用	76	134
② 経常利益	926	523
特別利益	76	24
特別損失	61	10
税金等調整前四半期純利益	941	537
③ 四半期純利益	522	187

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位: 億円)

科目/期別	当第2四半期 自 2010年4月 1 日 至 2010年9月30日	前第2四半期 自 2009年4月 1 日 至 2009年9月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	773	396
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 252	549
務活動によるキャッシュ・フロー	△ 108	△ 420
現金及び現金同等物に 換算差額	△ 95	△ 26
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	318	498
現金及び現金同等物の期 残高	2,592	1,778
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,910	2,276

当第2四半期のPOINT

- ① 営業利益 901億円(前年同期比 77.2%↑)**
売上高の増加、円高に伴う為替の影響による販売費及び一般管理費の減少により増益となりました。
- ② 経常利益 926億円(前年同期比 77.3%↑)**
営業利益の増加やランバクシー社の為替デリバティブの評価損益および為替差損が減少したことなどにより増益となりました。
- ③ 四半期純利益 522億円(前年同期比 179.0%↑)**
経常利益が増加したことに加え、前期に過年度の法人税等の修正などにより法人税等が高水準となっていたことなどから大幅な増益となりました。

主要経営指標

	2009年度	2008年度
1株当たり当期純利益(△損失)	59.45円	△ 304.22円
1株当たり純資産額	1,215.62円	1,226.04円
1株当たり配当金(年間配当)	60.00円	80.00円
配当性向	100.9%	—
自己資本比率	57.4%	57.7%
純資産配当率(DOE)	4.9%	5.4%
自己資本当期純利益率(ROE)	4.9%	△ 20.5%

通期の見通し

2011年3月期連結業績予想

売上高	9,800 億円(前期比 279億円↑、2.9%↑)
営業利益	1,000 億円(前期比 45億円↑、4.7%↑)
経常利益	1,000 億円(前期比 31億円↓、3.0%↓)
当期純利益	550 億円(前期比 131億円↑、31.4%↑)

通期においては、売上高は円高傾向の影響はあるものの、主力製品オルメサルタンフランチャイズの伸長やランバクシー社などの売上寄与により増収を見込んでおります。

また、利益面でも当第2四半期に引き続き経費全般にわたる費用圧縮につとめていくことにより増益を見込んでおります。

1株当たり配当金は、2009年度と同額の年60円を予定しております。

会社概要

商号	第一三共株式会社 (DAIICHI SANKYO COMPANY, LIMITED)
資本金	500億円
事業内容	医療用医薬品の研究開発、製造、販売など
従業員数	約30,400名(連結)

役員 (2010年9月30日現在)

〈取締役〉

代表取締役会長	庄田 隆	社外取締役	沖本 隆史
代表取締役社長	中山 譲治	社外取締役	平林 博
取締役	松田 等	社外取締役	石原 邦夫
取締役	采 孟	社外取締役	安西祐一郎
取締役	荻田 健		
取締役	廣川 和憲		

〈監査役〉

常勤監査役	高柳 輝夫	社外監査役	山田 昭雄
常勤監査役	永田 光	社外監査役	石川 重明

株式の状況 (2010年9月30日現在)

発行可能株式総数	2,800,000,000株
発行済株式の総数 (自己株式5,086,823株を含む)	709,011,343株
株主数	115,142名

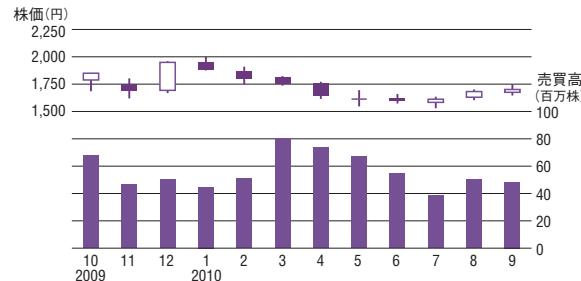
大株主 (上位10名)

株主名	持株数	持株比率
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	53,213千株	7.51%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	42,273	5.96
日本生命保険相互会社	37,659	5.31
ステート ストリートバンク アンド トラスト カンパニー	16,975	2.39
株式会社三井住友銀行	13,413	1.89
SSBT OD05 OMNIBUS ACCOUNT - TREATY CLIENTS	12,277	1.73
ジェーピー モルガン チェース バンク 385147	12,251	1.73
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	9,238	1.30
東京海上日動火災保険株式会社	9,086	1.28
株式会社みずほコーポレート銀行	8,591	1.21
合計	214,979	30.32

所有者別株式分布状況



株価および出来高の推移



株主メモ

事業年度 4月1日～翌年3月31日	同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL0120-232-711(通話料無料)
期末配当金受領株主確定日 3月31日	上場証券取引所 東京証券取引所・大阪証券取引所・名古屋証券取引所 各第1部
中間配当金受領株主確定日 9月30日	定時株主総会 毎年6月
単元株式数 100株	公告の方法 電子公告により行う 公告掲載URL http://www.daiichisankyo.co.jp/
株主名簿管理人 特別口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社	(ただし、電子公告によることができない事故、 その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経 済新聞に公告いたします)

お知らせ

配当金計算書について

配当金の口座振込をご指定の方と同様に、「配当金額取証」により配当金をお受取りになられる株主様宛にも「配当金計算書」を同封いたしております。配当金をお受取りになった後の配当金額のご確認や確定申告の資料としてご利用いただけます。

主要な国内事業拠点

本社	東京都中央区日本橋本町三丁目5番1号
支店	札幌、東北(宮城県)、東京、千葉、埼玉、横浜、北関東(東京都)、甲信越(東京都)、東海(愛知県)、京都、北陸(石川県)、大阪、神戸、中国(広島県)、四国(香川県)、九州(福岡県) ※上記の他、全国主要都市に営業所を設けております。
研究所	品川(東京都)、葛西(東京都)、袋井(静岡県)、館林(群馬県)、小名浜(福島県)、平塚(神奈川県)、神戸
工場	秋田、小名浜(福島県)、館林(群馬県)、平塚(神奈川県)、小田原(神奈川県)、高槻(大阪府)、大阪

主要な国内グループ会社

会社名	主要な事業内容
第一三共エスファ株式会社	医薬品の製造・販売
第一三共ヘルスケア株式会社	ヘルスケア品の開発・製造・販売
第一三共プロファーマ株式会社	医薬品の製造
第一三共ケミカルファーマ株式会社	医薬品の製造
第一三共ロジスティクス株式会社	物流及び関連業務
アスピオファーマ株式会社	医薬品の研究開発
第一三共RDアソシエ株式会社	グループの研究開発サポート業務
第一三共ビジネスアソシエ株式会社	グループのビジネスサポート業務
第一三共ハピネス株式会社	グループのビジネスサポート業務

海外グループ会社

●北米 アメリカ	第一三共INC. ルイトボルド・ファーマシューティカルズInc.
●ASCA 中国	第一三共製薬(北京)有限公司 第一三共製薬(上海)有限公司 香港第一三共有限公司
台湾	台湾第一三共股份有限公司
韓国	韓国第一三共(株)
タイ	第一三共タイLtd.
インド	第一三共インドLtd. ランバクシー・ラボラトリーズLtd.グループ *なお、同社グループ会社の記載は省略しています。
ブラジル	第一三共ブラジルLtda.
ベネズエラ	第一三共ベネズエラS.A.

●欧州

ドイツ	第一三共ヨーロッパGmbH 第一三共ドイツGmbH※ U3ファーマGmbH
フランス	第一三共フランスS.A.S.※ 第一三共アルトキルヒSarL※
イタリア	第一三共イタリアS.p.A.※
スペイン	第一三共スペインS.A.※
イギリス	第一三共UK Ltd.※ 第一三共デベロップメントLtd.
スイス	第一三共スイスAG※
ポルトガル	第一三共ポルトガルLda.※
オーストリア	第一三共オーストリアGmbH※
ベルギー	第一三共ベルギーN.V.-S.A.※
オランダ	第一三共オランダB.V.※
トルコ	第一三共トルコLtd. Şti.※
アイルランド	第一三共アイルランドLtd.※

※は第一三共ヨーロッパGmbHグループ